



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1990, 54(1): 111-119

ISSUE DATE:

1990-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/93994>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成2年4月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第54巻 第1号

ISSN 0525-2997

vol.54 no.1

物性研究

1990/4

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ \square ”、イタリック“ \sim ”、ゴシック“ \sim ”、ギリシャ文字“ γ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい o と a と 0 (ゼロ)、 u と n と r 、 c と e 、 l (エル)と 1 (イチ)、 x と \times (カケル)、 u と v 、 \dagger (ダガー)と $+$ (プラス)、 ϕ と ϕ と φ と \emptyset 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ \square ”、イタリック“ \sim ”、ゴシック“ \sim ”、ギリシャ文字“ γ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい o と a と 0 (ゼロ)、 u と n と r 、 c と e 、 l (エル)と 1 (イチ)、 x と \times (カケル)、 u と v 、 \dagger (ダガー)と $+$ (プラス)、 ϕ と ϕ と φ と \emptyset 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

議 事 録

第5回物性委員会議事録

日 時 平成2年3月30日(金) 18.00~20.00

場 所 大阪大学理学部

出席者 上村 洸, 金森順次郎, 守谷 亨, 仁科雄一郎, 長岡洋介, 川路紳治,
福山秀敏, 禅 素英, 白鳥紀一, 三輪 浩, 小川信二, 勝木 渥,
山田鏑二, 伊達宗行, 糟谷忠雄, 豊沢 豊

報告事項

1. 物性委員会事務局報告(長岡)

大学院学生数調査のアンケートを実施したこと, および物性研共同利用委員, 基研研究部員の選挙を行いその結果に基づき各委員の推薦をおこなったこと(選挙結果は1990年1月25日付け物性グループ事務局報(No.1)に掲載)の報告があった。

2. 物研連報告(伊達)

3月8, 9日に行われた物研連の様子が報告された。また, 西播磨に建設が決まった科技厅の大型SORに関し, 省庁間の協力により大学関係者が容易に利用できるよう, 学術会議近藤会長宛に要望書を提出すべく第4, 第5部会で検討中であったが, そのような要望書を提出することをためらうムードが第4部会にあった。物性専門委員会では上記要望書を提出すべきであるとの意見が強く, その方針に沿って現在第4部会で再度準備中との報告がなされた。

3. 物性研報告(守谷)

従来は物性研将来計画をキャンパス移転計画が具体化した段階で公表する予定であったが, 諸般の事情を考慮し, なるべく早く公表することにしたこと, および所員1名の転出が報告された。なお, 最近助手流動も活発であるとのことである。

4. 金研報告(仁科)

来年春に予算が切れる超伝導材料強磁場施設を維持するため, 来年度の概算要求に向け現在文部省と折衝中であること, 金属工学関係3部門のうち1部門を材料情報部門として所内処置で振替えることとし, 材料データベースの開発と, その利用法の研究を担当する責任者を選考中であること, および物性研から桜井氏が着任したことの報告があった。なお, 超伝導材料強磁場施設の概算要求を側面から援助願いたいとのことであった。

5. 基研報告(長岡)

広大理論研との合併は平成2年度予算が成立次第実現されること, これに伴い事務官2名のポストがくることの報告がなされた。また物性関係は2部門のままであり, 今後部門増がある場合物性部門が第1位となること, 平成3年度概算要求に非平衡物理学部門をのせることが了承されていること, 次期所長に長岡が選出されたことが併せて報告された。また, 広大からの移転所員の処遇は当分の間広大の時と同じにするとの合意が交わされているとのことである。

6. 高エネルギー研報告(糟谷)

☆放射光関係: トリスタン計画の実験は今後更に4, 5年かかる予定であるが, その後はメインリ

ングを B Physics および超高輝度光源リングに転用することを考えている。これら2計画は共存可能な利用形態であるが予算上の順位等で物性グループからの強い働きかけが必要である。その他、直ちに発足可能なものとして VUV リングがある。しかしながら、これは物性研将来計画および地方放射光計画との競合等微妙な問題が含まれており、物性グループの支持があればこの計画を推進したい。

☆中性子関係：従来のジェミニ計画が大型ハドロン計画に吸収された。大型ハドロン計画は東大核研の計画であり、高エネルギー研の将来計画には入っていない。しかし、高エネルギー研もこの計画に協力することになっているが、その実現には微妙な問題が含まれており、物性グループの意向があれば高エネルギー研計画としての中性子散乱計画を推進することも考えられる。

以上の報告があった。

協議事項

1. 大学院学生数実態調査アンケートの集計結果について。（資料：大学院入学者数一覧）

大学院博士課程後期へ進学する学生数が最近減少し、後継者を養成する上に重大な障害となっているようである。その実態を調査するため、理学部大学院に物理がある各大学に、過去5年間における大学院入学者数のアンケート調査を行った。DC課程をもつ大学から12、独立大学院をもつ大学から7、公立大学から2、MC課程のみをもつ大学から12、私立大学から8通の回答があった。

集計結果によれば、過去5年間に関するかぎりMC、DCの入学者数はむしろ増加の傾向がみられた。これには、5年間のデータでは少なく10年程度のデータが無ければ実態を把握できないのではないか、優秀な学生が就職してしまうという実態が把握できないとの指摘がなされた。また、大学に残る魅力が乏しくなり企業に流れるため、大学で何を行うかははっきりさせ後継者を確保しなければならないとの発言があった。アンケートの集計結果は事務局から公表する予定との報告がなされた。

2. 物性将来計画について。

大型ハドロン計画は東大核研に調査費がつき、前向きに進めることになっている。しかし、今後これがスムーズにいくかどうかは予断を許さない状況にある。この計画の推進を慎重に見ながら、物性グループと議論を交わしていきたい旨、物研連大型施設ワーキンググループ委員長伊達委員から報告があった。大型施設である放射光問題に関連して守谷委員から、放射光関係の研究会が物性研で開かれ、すでに報告書もだされている。なぜ高輝度光源が物性研究を遂行する上に必要かを念頭に置くことが大切であり、物性研では物性研究者の立場から計画を作成しているとの報告がなされた。物研連物性将来計画ワーキンググループ委員長糟谷委員から、前期の金森委員会を引継ぎ国分寺計画の検討を行っているが、総本山として共同利用研との関わりをも議論しなければならない。また、中性子や放射光等大型施設も物性研が関わっているので、物性研将来計画との絡みが出てくる。このため今期は伊達委員会と協力し作業を進めている旨報告があった。伊達委員から、中性子関係では物性研に改3号炉の予算がついた。その性能は効率面をも考えれば Brookhaven の装置と大差が無いので積極的に利用しなければならない。しかし、Neutron Group の人口が減少しており、化学や生物も含めた広い分野から若手研究者を確保する必要があるとの指摘があった。これに関連し守谷委員から、物性研では中性子部門の所員を所内努力により増やすことになり現在公募中との報告があった。最後に物性研将来計画に関し、ワーキンググループとの懇談会や拡大物性委員会で広い範囲の意見を集める機会を持ちたいとの提案が長岡委員長から出され、秋の学会の折りに開催することとした。

プレプリント案内

〔京都大学基礎物理学研究所〕

- 4-1 V.M. Chernousenko, I.V. Chernenko and S.V. Chernyshenko
Drift Vortices in Continuous Media
- 4-2 I.I. Ukrainskii and E.A. Ponezha
Correlation Pairing and Antiferromagnetic Phase Energy in Low-Dimensional Systems of La-Sr-Cu-O and Y-Ba-Cu-O Metaloxides
- 4-3 M.V. Karasev
To the Maslov Theory of Quasi-Classical Asymptotics. Examples of New Global Quantization formula Applications
- 4-4 A.S. Davydov
Foundations of Quasi-One-Dimensional Bisoliton Model of Superconductivity of Ceramic Oxides
- 4-5 M. Novello, H.P. de Oliveira, J.M. Salim and J. Torres
Viscous Causal Cosmologies
- 4-6 E. Baggio Saitovitch, R.B. Scorzelli, I. Sousa Azevedo and H. Micklitz
Dynamical Information for Fe-Doped $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_7$ Superconducting Oxides Obtained From High Temperature Mössbauer Studies
- 4-7 L. Iannarella, X.A. da Silva and A.P. Guimaraes
A Simple Model for Localized-Itinerant Magnetic Systems: Crystal Field Effects
- 4-8 A.M. Rossi and G. Poupeau
Radiation-Induced Paramagnetic Species in Natural Calcite Speleothems
- 4-9 A.Y. Takeuchi and S.F. da Cunha
Effects of Al Substitution by Fe in CeAl_2

- 4-10 E. Baggio Saitovitch, R.B. Scorzelli, I. Souza Azevedo, C.A. dos Santos and F.J. Litterst
 ^{57}Fe Mössbauer Studies on Semiconducting and Superconducting La-Ba-Cu-O
- 4-11 E. Baggio Saitovitch, R.B. Scorzelli, I. Souza Azevedo and C.A. dos Santos
On the Mechanism of Oxygen Desorption in Fe:Y-Ba-Cu-O superconducting Oxides
- 4-12 A. Iiyoshi, M. Fujiwara, O. Motojima, J. Todoroki, N. Ohyaabu and K. Yamazaki
Design Study of the Large Helical Device
- 4-13 N. Ueda, K. Itoh and S.-I. Itoh
Numerical Studies on Divertor Plasmas in Helical Systems
- 4-14 Yoshi H. Ichikawa, Y. Nomura and T. Kamimura
Period - 3 Catastrophe and Enhanced Diffusion in Two-Dimensional Hamiltonian Systems
- 4-15 S.-I. Itoh and K. Itoh
Change of Transport at L-and H-mode Transition
- 4-16 Y. Nomura, S.Y. Kim, T. Kamimura and Y.H. Ichikawa
Symmetry and Island Structure of the Standard Map
- 4-17 Y. Nomura, T. Kamimura and Y.H. Ichikawa
Stochastic Properties of the Plasma Wave Heating Map
- 4-18 T. Hayashi, T. Sato and A. Takei
Three Dimensional Studies of Helical Equilibria and Magnetic Surface Breaking Due to the Finite Beta Effect
- 4-19 S.-I. Itoh
A Model of Peaked Density Profile and Inward Pinch in Tokamaks
- 4-20 J. Todoroki
Adiabatic Invariant and Evaluation of Particle Loss in Helical Torus

- 4-21 K. Itoh and S.-I. Itoh
Effect of Confinement of SOL Plasma on Core Temperature Profile
- 4-22 T. Kato
Plasma Diagnostics and Atomic Processes
- 4-23 K. Itoh, H. Sanuki, J. Todoroki, T. Kamimura, S.-I. Itoh, A. Fukuyama and K. Hanatani
Loss Cone Region in Toroidal Helical Systems
- 4-24 K. Urata, T. Hatori and T. Amano
Current Bubble Formation by Nonlinear Coupling of Resistive Tearing Modes
- 4-25 N. Ohyabu
An Empirical Scaling of the Thermal Diffusivity Applicable to Both L-and H-Mode Discharges
- 4-26 Roberto D'Autilia and Francesco Guerra
Qualitative Aspects of Signal Processing Through Dynamical Neural Networks
- 4-27 E. Buffet and R.F. Werner
A Counter-example in Coagulation Theory
- 4-28 M.Falcioni, G. Paladin and A. Vulpiani
Intermittency and Multifractality in Magnetic Dynamos
- 4-29 R. Hong Tuan
Abstraction Hierarchy in Neural Networks: A Rigorous Treatment
- 4-30 S. Borbély, L.S. Smirnov, Ju.K. Kovneristii, T.T. Nartova, O.B. Tarasova, V.Yu. Bezzabotnov and Yu.M. Ostanevich
Thermal Stability of $Ti_{41}Zr_{41}Si_{18}$ Metallic Glass Studied by Small-Angle Neutron Scattering
- 4-31 F.A. Gutierrez and M.D. Girardeau
Collective Mechanisms for Atomic Transitions in Dense Plasmas I:Representation and Acreeened Coulomb-Born Approximation for Plasmonic Recombination Cross Section

- 4-32 F. Christiansen, H.H. Rugh and G. Paladin
Determination of Correlation Spectra in Chatic
Systems
- 4-33 Yi-peng Jing
Higher-Order Superclustering in the Ostriker
Explosion Scenario I. Three-Point Correlation
Functions of Clusters in the Constant and Power-
Law Models
- 4-34 Bernard Derrida and Luca Peliti
Evolution in a Flat Fitness Landscape

『物性研究』53-4 (1990. 1) 所載

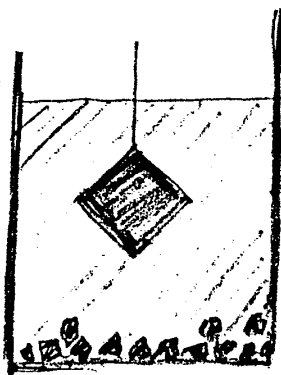
「エントロピー的見地からの一カルノー主義者による統一的自然像への試み」

信州大・理 勝木 渥

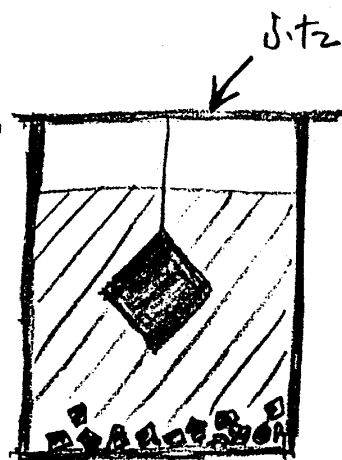
正誤と補足

381頁の図

誤：(ふたがない)



正：(ふたがある)



なお、このような現象の存在を私に教えてくれたのは、1987年10月、信州大学化学科の学生 福田光成君であった。

402頁 下から7行目

誤：130~178 mol

正：128~175 mol

(399頁 10行目の数値にあわせる)

誤：337~437 mol

正：335~434 mol

(上記訂正に連動した訂正)

428頁 19行目

誤：6800nm

正：680 nm

430頁 下から5行目 (謝辞の追加)

「……山田鏑二氏に；」 のあとに

「“Entropy in the School” を一緒に読んでくれたことを 伊達崎広君に；」

を付け加える。

(1990. 4. 16 勝木 渥)

東欧の政変は、正に青天の霹靂とも思われる程の急変であったが、最近の世の中の変化の早さは驚きである。特にここに来て急に経済大国とやらに成長した日本の社会の急変ぶりには、呑気に大学にいる者にとってはついて行きかねる程である。

そもそも大学の研究・教育は、世の中の短周期のゆらぎ（長周期のもの？）に対して超然とした態度で接すべきであると信じるものであるが、大学内には生身の学生や教職員がいるので世の中の動きには無関心ではられない（おまけに最近の研究はお金がかかる）。

最近、大学院志望者が減少傾向にあり、加えて大学院修士課程修了後会社に就職する学生がふえて来た。物理学の地盤沈下が口の端にのぼるようになって来た。また大学内では定員削減が進み、事務系職員の減少に比べて技官の減少が特に著しい。京大の物理教室では二、三年内には技官がほとんどいなくなる。こんなことでは研究、特に実験物理学は成り立たない。研究をやっている当事者は毎日おもしろくやっているので、その辺の事情は何が原因であるのかよくわからない。私は低温物理なるものを研究しているが、ここ10年間程をとってみても以前よりもおもしろい問題が多く提示されて来たように思う。液体He-3の超流動、固体He-3の核整列、高温超電導体や理論主導型の問題では Kosteritz-Thouless転移や電子局在の問題。最近の Mesoscopic物理では今後もおもしろそうな問題が出てくるような気がする。これらの問題もだいたい数年間で研究のピークを終えて、あっさり幕を閉じる。とにかく世の中はせわしなくなった。

こんな中で「物性研究」の果たすべき役割について、編集会議のたびごとに議論されている。各地編集委員の人数も、今回多少多くなった。読者諸子の御鞭撻・御支援がなければ自然消滅する心配も多い今日この頃です。

(T. M.)

[物性研究]

発行人

小 貫 明 (京大基研)

編集長

池田 研介 (京大基研)

編集員

網代 芳民 (京大・理・化学)

小 貫 明 (京大基研)

蔵本 由紀 (京大・理・物理)

戸谷 隆雄 (京大・理・物理)

富田 博之 (京大・教養・物理)

水崎 隆雄 (京大・理・物理)

各地編集員

阿波 克之 (北大・理・物理)

都築 俊夫 (東北大・理・物理)

香取 真理 (東大・理・物理)

金子 邦彦 (東大・教養・物理)

甲元 真人 (東大・物性研)

田崎 晴明 (学習院大・理・物理)

小川 泰 (筑波大・理工工学)

松本 元 (電総研)

勝木 渥 (信州大・理・物理)

三宅 和正 (名大・教養・物理)

五十嵐 潤一 (阪大・理・物理)

川勝 年洋 (九大・理)

(1990.4.現在)

物 性 研 究 第54巻第1号 (平成2年4月号) 1990年4月20日発行

発行人 小 貫 明

〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭和堂印刷所

〒606 京都市百万辺交叉点上ル東側
TEL(075) 721-4541~3

発行所 物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学湯川記念館内

年額 15,600円

[物性研究]	発行人	小 貫 明	(京大基研)
	編集長	池田 研介	(京大基研)
	編集員	網代 芳民	(京大・理・化学)
		小 貫 明	(京大基研)
		蔵本 由紀	(京大・理・物理)
		戸谷 隆雄	(京大・理・物理)
		富田 博之	(京大・教養・物理)
		水崎 隆雄	(京大・理・物理)
各地編集員		阿波 克之	(北大・理・物理)
		都築 俊夫	(東北大・理・物理)
		香取 真理	(東大・理・物理)
		金子 邦彦	(東大・教養・物理)
		甲元 真人	(東大・物性研)
		田崎 晴明	(学習院大・理・物理)
		小川 泰	(筑波大・物理工学)
		松本 元	(電総研)
		勝木 渥	(信州大・理・物理)
		三宅 和正	(名大・教養・物理)
		五十嵐 潤一	(阪大・理・物理)
		川勝 年洋	(九大・理)

(1990.4.現在)

物 性 研 究 第54巻第1号 (平成2年4月号) 1990年4月20日発行

発行人	小 貫 明	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
	計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1—5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075) 753—7051 722—3540

物 性 研 究 54—1 (4月号) 目 次

○研究会報告

「ランダムなフラクタル・パターンの成長機構と統計」…………… 1

○モンテカルロシミュレーションに於ける Decoupled Cell Method の検証
……………長谷部勝也…………… 92

○離散型非線型 Schrödinger 方程式の二三の新しい解…成田 和明…………… 108

○議 事 録

第5回物性委員会議事録…………… 111

○プレプリント案内…………… 113

○訂 正…………… 117

○編集後記…………… 118

物 性 研 究 54—1 (4月号) 目 次

○研究会報告

「ランダムなフラクタル・パターンの成長機構と統計」…………… 1

○モンテカルロシミュレーションに於ける Decoupled Cell Method の検証
……………長谷部勝也…………… 92

○離散型非線型 Schrödinger 方程式の二三の新しい解…成田 和明…………… 108

○議 事 録

第5回物性委員会議事録…………… 111

○プレプリント案内…………… 113

○訂 正…………… 117

○編集後記…………… 118